

共生社会ホストタウン追加登録団体の活動計画（2019年12月17日）

自治体名 (所在都道府県名)	相手国	活動計画
仙北市 (秋田県)	タイ (車いすバス ケ)	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元出身のパラリンピアン（スキー）による体育施設管理者等に向けた講演会を実施し、パラスポーツ及び施設のユニバーサルデザイン化について理解を深めた。また、2019年10月にはタイ車いすバスケットボール事前合宿に際し中学生との交流を実施し、障害への理解を深めた。今後とも、2020大会の事前合宿を含め、パラスポーツと市民との交流機会を創出し、パラスポーツをより身近なものとし、市民の心のバリアフリーを促進する。</li> </ul> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地や観光の拠点となる駅前や武家屋敷等の観光エリアにおいて、多目的トイレの設置（14カ所）、段差解消や点字ブロックの整備を行うとともに、宿泊施設のバリアフリー調査（22施設）を行い情報提供している。今後、市役所の新庁舎建設にあたり、多目的トイレ、エレベーター、障害者用駐車場等設置等のバリアフリー化を図るとともに、その他の公共施設の改修の際にも、障害当事者の意見を聞いて、ユニバーサルデザイン化する。</li> </ul> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者による芸能や絵画の発表、音楽活動を行っている障害者による演奏会等の毎年開催を支援している。また、観光事業者、中学生を含む市民向けに、接遇接客サービスを手掛けている事業所による「やさしいまちづくり講演会」やユニバーサルマナー検定（約100名が3級を取得）を実施するほか、手話教室も実施中。今後も継続して実施し、市民の心のバリアフリーを促進していく。</li> </ul>
福島市 (福島県)	スイス	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2020大会の事後交流として、スイスパラリンピアンと小中学生との交流を実施し、障害者理解等を促進する。本年11月にはポッチャ地区対抗交流記念大会を開催するとともに、地元を含む日本人ポッチャ選手との交流を行った。今後も継続的に開催し、障害の有無や年齢・性別に関わらない交流親睦を深める。また、地元パラアスリートや障害当事者が参加し、歩道やトイレ等の「まち歩き総点検」を行った。今後、結果を踏まえた整備を実施する。</li> </ul> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市庁舎（2011年開庁）のユニバーサルデザイン化、福島駅西口広場の点字ブロック設置や段差解消、歩道の段差解消や歩車道境界ブロックの撤去等を実施してきた。今後、バリアフリー基本構想の策定を目指す。また、本年より、東京2020大会が持つ共生社会の理念に共鳴し、官民一体となってハード・ソフト両面のバリアフリーを実践する「バリアフリー推進パッケージ」を開始した。</li> </ul> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「バリアフリー観光おもてなしガイドブック」を2017年度に作成するとともに、セミナーを継続的に実施している。また、パーソナルバリアフリー基準に基づき施設のトイレ等を調査し、結果をバリアフリーツアーセンターのホームページに掲載するとともに、観光バリアフリートイレマップを作成する。今後、共生社会の実現を目指す「（仮称）障害のある人もない人も共にいきいきと暮らせる福島市づくり条例」を制定予定。</li> </ul>
潮来市 (茨城県)	スウェーデン (パラカヌー)	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スウェーデンのパラカヌー選手の合宿受入れ、公開練習及び市民との交流会を通じ、パラカヌーの普及と心のバリアフリー意識の啓発を図るとともに、同合宿でのホテル、観光施設、スポーツ施設等の利用を通じ、ハード・ソフト両面からのバリアフリー化を促進する。また、市内のボートコース等で、日本人パラボート手と施設利用者の合同練習が随時実施されており、今後も継続的にパラスポーツの普及と多様性理解に取り組む。</li> </ul> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スウェーデン合宿で利用されるボートセンターのトイレ改修、代表的観光スポット「あやめ園」の多目的トイレのオストメイト対応（2019年3月）、市内小中学校10校中9校での多目的トイレ設置、住宅街近隣駅周辺の歩道の段差解消等のバリアフリー化を進めている。また、2020年度に身体障害者団体等の協力を得て現地調査を行い、公共施設や病院等の多目的トイレや入口の段差等を記載したバリアフリーマップを2021年度以降に作成する。</li> </ul> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本人パラリンピアンによる教育機関を対象とした講話体験（2019年12月）及び障害当事者でもある茨城大学非常勤講師による中学生を対象とした障害者差別解消法についての講演（2018年10月）や小学生を対象とした交通バリアフリー教室（2019年6月）を開催した。今後も継続して開催し心のバリアフリーを広めていく。また、2018年に施行された県手話言語条例に基づき、近隣市町村と合同で手話奉仕員養成講座を毎年開催している。</li> </ul>

自治体名 (所在都道府県名)	相手国	活動計画
みどり市 (群馬県)	香港 (ポッチャ)	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <p>・2019年11月に香港ポッチャチーム関係者等が市民体育館や宿泊施設を視察するとともに、約450人が参加した市民スポーツフェスティバルでポッチャ競技の指導等が行われた。今後も、香港ポッチャチームの事前合宿受け入れや、日本人パラアスリートが参加する「市民スポーツフェスティバル」におけるポッチャ体験等を通じて、市民がパラスポーツに気軽に取り組める環境を整備し、障害理解、パラスポーツの普及、心のバリアフリー等東京大会のレガシーにつなげる。</p> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <p>・2019年11月にバリアフリー対応トイレやエレベーターを完備した市民交流施設「多世代交流館」を開所した。また、重度障害者等日常生活用具給付事業で、自立した日常生活を支援する用具や住宅改修費などの給付を実施している(2018年度実績:951件)。今後、東武桐生線阿左美駅舎にスロープを整備する等のバリアフリー化を推進する。</p> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <p>・口に筆をくわえて詩画を描き続けている世界的に有名な星野富弘氏の出身地として、同氏の美術館を運営(延べ650万人以上来館)し、障害者の創作活動等への理解や活躍の場の創出に努めつつ、小中学校で同氏を紹介し心のバリアフリー教育を進めている。今後も、手話言語条例(2017年4月制定)に基づく手話講座の開催、市民の障害体験の機会を創出する「健康福祉まつり」の継続的な開催等、障害者の意見を取り入れながら心のバリアフリーを推進する。</p>
富士見市 (埼玉県)	セルビア	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <p>・本年、パラリンピック1年前イベントとして700人が参加する障害者スポーツ体験イベントを実施。2020大会時には、セルビアのパラリンピアンと市民卓球団体との交流試合、障害者団体との交流、パラスポーツ体験会等を開催する。これらのセルビアとの交流や、障害のある日本人スポーツ選手等によるパラスポーツの体験イベントや講演を通じ、市民の障害に対する理解と心のバリアフリーを促進し、障害者スポーツのファンを増加させていく。</p> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <p>・動線がフラットになるよう市民総合体育館を部分改修(2018年5月完成)したほか、鉄道駅でのエレベーターや点状ブロックの設置(市内全駅で導入済)、ノンステップバス導入補助(これまで14台導入)、市立自動車駐車場への身障者用スペース及び多目的トイレの設置等を継続的に実施している。今後、セルビアパラ選手団と市内障害者団体に市内文化遺産及び公共施設等の視察・点検をいただき、ユニバーサルデザインの街づくりに活かす。</p> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <p>・本市のオリパライメントに携わる市民ボランティア「富士見TOPサポーター」を130名登録するとともに、2020年以降もパラスポーツ大会等での活動継続に向け、心のバリアフリー研修等を行う。今後とも、「あいサポート運動」の継続的展開、全中学校での「心のバリアフリー授業」、障害者目線での街中点検・発表(毎年開催)等を通じ、「障がいのある人もない人も、ともに生き、ともに支えあうまちふじみ」の実現を目指す。</p>
武蔵野市 (東京都)	ルーマニア (パラ柔道・パラ卓球等)	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <p>・市民から募集した応援募金を活用し、昨年度ルーマニアパラ選手団の合宿を受け入れ、市民交流を行った。また、直近1年間で3回、パラリンピアンを招いてポッチャの普及イベントを行った。今後も継続して日本人パラアスリートとの交流の機会を提供するとともに、ルーマニアの事前合宿及び大会後交流における公開練習、パブリックビューイング、学校訪問等を通じ、パラ競技の普及推進と市民の心のバリアフリー意識の啓発を推進していく。</p> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <p>・事前合宿を受け入れる陸上競技場及び総合体育館の更衣室やトイレ等のバリアフリー改修や、東京スタジアムへの本市での玄関口駅のバスロータリーのバリアフリー化(バスの正着や視覚障害者誘導用ブロックの改良等)を実施した。また、障害者雇用を行っている特定会社によるバリアフリーチェックを受け総合体育館の点字ブロックの設置や備品の整備等の改善を図っているところであり、今後とも同社と様々な連携を図っていく。</p> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <p>・障害者が自由に好きなスポーツで体を動かすことができる「障害者のためのスポーツ広場」の開催や、知的障害がある子ども向けのサッカー教室への支援、障害のある方が気軽に体を動かすことができる施設や事業を紹介する「障害者スポーツの手引き」の発行、障害の有無を問わず参加できるポッチャ大会「ポッチャ武蔵野カップ」の実施など、パラスポーツを通じ共生社会の実現を目指した取り組みを行っており、今後も継続して取り組んでいく。</p>

自治体名 (所在都道府県名)	相手国	活動計画
横浜市 (神奈川県)	英国	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英国パラリンピック代表チームの事前キャンプにあわせて市内の児童、地元住民等と交流するほか、2020年5月に横浜で開催されるITU世界パラトライアスロンシリーズの前後に市内の児童と交流会を実施する。また、小・中・特別支援学校全校（約500校）を対象に2014年度から日本人オリンピック・パラリンピアンが訪問し、授業や講演、実技指導等を実施している（2024年度まで）。これらを通じ、障害やパラ競技等の理解を促進する。</li> </ul> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉のまちづくり条例に基づく建物等の新設・改修の際の事前協議、経費補助によるノンステップバス（704台）やUDタクシー（183台）の導入促進、全区役所でのタブレット端末による手話通訳の提供等を継続的に行っている。また、バリアフリー観光モデルコース4コースのマップ（日本語版・英語版）作成と公式サイトによる発信や観光事業者向けセミナーを行っている。現在バリアフリー基本構想を30駅で作成しており、今後、障害者団体等と連携し、未作成駅での作成や既存の基本構想の見直しを行う。</li> </ul> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「障害者スポーツ文化センター横浜ラポール」において障害のある人を対象としたスポーツ大会・交流や美術展などを展開するとともに、福祉のまちづくりに関する子ども用リーフレットの市内全小学校への配布や障害者週間啓発イベントの開催、障害福祉人材のPR動画の作成等を実施している。また、2020年度末までに、オリンピック・パラリンピックのレガシーを見据え、福祉のまちづくり推進指針を改定する予定。</li> </ul>
平塚市・ 神奈川県 (神奈川県)	リトアニア	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リトアニアパラチームの事前合宿受入れとホストタウンの取組の推進のため、産官学民計64団体で構成される市民主体の組織「ひらつかリトアニア交流推進実行委員会」を設立し交流推進基本方針を策定した。事前合宿に際し、パラスポーツ体験、学校訪問等の交流を実施するとともに、日本人パラリンピアン等によるパラスポーツの体験や講演会等のイベントを継続的に開催し、障害のある人の社会参加に向けた意欲喚起や市民の障害理解を促進する。</li> </ul> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政機関の他交通事業者や市民関係団体等から構成される「バリアフリー推進協議会」を設置し、歩道の段差解消、公共施設案内サインの設置等、事業者等と利用者が一体となってバリアフリー化を推進している。また、宿泊事業者や障害者・高齢者向けの「だれもが利用しやすい宿泊施設を目指して -ガイドライン-」や、既存建築物のバリアフリー化整備ガイドラインを作成している。今後、バリアフリー法の基本構想を改定する予定。</li> </ul> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉計画において「オリンピック・パラリンピックを契機とした思いやりの心の醸成」事業を位置づけ、「ひらつかパラスポーツフェスタ」やポッチャ競技大会等のパラスポーツイベントやリトアニアパラリンピックチームとの交流イベントの継続的な開催等を通じて、大会を契機とした心のバリアフリーを推進している。また、市民の心のバリアフリーの醸成を同計画の数値等目標に位置付け、大会終了後も共生社会に向けた取組を加速させる。</li> </ul>
藤沢市・神 奈川県 (神奈川県)	ポルトガル (パラ陸上、パ ラ水泳、ボッ チャ等)	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポルトガル代表チームの事前キャンプに併せ、学校訪問や公開練習、壮行会等の交流を行うとともに、スポーツ施設、公共施設、江の島等の観光地等の訪問・バリアフリーの確認を行い、ユニバーサルデザインの街づくりを推進する。また、学校や住民を対象に日本人パラリンピアン等の講演やパラスポーツ体験会を開催している。大会終了後も、パラリンピアン等を講師としたパラスポーツ授業等を実施し、パラスポーツを通じた共生社会を推進する。</li> </ul> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主要道路の歩道幅員の確保、段差解消、誘導用ブロックの設置等のバリアフリー化を実施するとともに、車いす・オストメイト対応トイレの設置状況等をまとめた「藤沢バリアフリーマップ」を作成・公開している。また、公共的施設のバリアフリー化を支援するため、一級建築士の資格を持つバリアフリーアドバイザーを派遣している。また、ポルトガルパラ関係者等からフィードバックを得て、市内施設のさらなる充実を目指す。</li> </ul> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害への理解を深めるため、「心のバリアフリーハンドブック」を作成し市内小学校4年生全員に配布するとともに、「ヘルプカード」を作成・配布している。また、閉館後の新江ノ島水族館に障害者と家族を招待しシティキャストが鑑賞をサポートする取組を実施した。さらに、「津久井やまゆり園」事件を受け、策定した「ともに生きる社会かながわ憲章」を踏まえ、「ともに生きる」ことを体感するイベント「みんなあつまれ」を各地で実施していく。</li> </ul>

自治体名 (所在都道府県名)	相手国	活動計画
金沢市 (石川県)	フランス (パラ水泳)	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <p>・フランスパラ水泳チームの事前合宿に際し、地元パラ選手との合同練習や障害者等との交流、約100名の「ホストタウン登録ボランティア」による合宿支援、練習の公開など、障害のある人と市民が努力と喜びを共有する機会を設けることにより、共生社会実現への機運を盛り上げる。また、2024年パリ大会に向け、本市で合宿を実施したフランスチームが、今度はフランスで本市のアスリートを受け入れるなど、継続性のある交流につなげる。</p> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <p>・体育館の大規模修繕に併せたトイレ改修・手すり設置や、観光施設のトイレ環境の改善に取り組んでいる。また、フランスパラチームに、宿泊施設や飲食店、交通機関等に関する聞き取り又はアンケートを行い、障害者目線での課題解決を企業や市民とともに取り組む。また、合宿に直接関係しない施設等にもこのムーブメントを波及させ、ハンディキャップを持つ人のために何をすべきかを市全体で見だし、実行する機運を醸成する。</p> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <p>・約14,000人が参加する金沢マラソンに障害者の優先出場枠を設けるとともに、フィニッシュ会場に障害者専用多目的スペースを設け、2019年度は128名の障害者の参加を得た。また、障害者アスリート個人への助成（2018年度6名）も行っている。今後、障害者が人前で脚光を浴びることが日常となるよう、障害者のファッションショー、音楽バンドコンサート、ダンスコンクール、金沢の工芸を活用した義肢義足等の創作展などの開催を目指す。</p>
岐阜市・岐阜県 (岐阜県)	カナダ (パラ陸上)	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <p>・カナダのパラ選手等とホストタウン相手国応援校との交流や日本パラリンピアンの学校訪問（2019年7月）を実施するとともに、2020大会でのパラリンピアン10人輩出を目指し選手の発掘から強化までの一貫した支援を実施している。今後とも、2020年事前合宿時におけるカナダ選手や障害者アスリートと児童生徒との交流等を通じて、市民の障害のある人への理解と配慮を促進していく。</p> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <p>・2019年11月から障害者等用駐車場の適正な利用を図るため、「ぎふ清流おもいやり駐車場利用証制度（1,100区画確保）」を開始した。また、障害者スポーツの推進等のため、全面バリアフリーのプール(2016年12月)や多様な障害者スポーツ等に対応できる障害者優先の体育館（2019年6月）を整備した。さらに、JR岐阜駅周辺のバリアフリー化やUDタクシーの導入を進めていく。</p> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <p>・障害の有無に関わらず誰でも参加できる「長良川ふれあいマラソン大会（2019年は743人のうち、障害者162人参加）」を開催し、スポーツを通じた交流を促進している。引き続き、2019年3月に作成した「障がい者の意思疎通手段に係るハンドブック」（14,660冊配布）やヘルプマーク（31,478個配布）、「白杖SOSシグナル」のシンボルマークの普及啓発等を通じ、障害への理解を深め、心のバリアフリーを推進する。</p>
岐阜市 (岐阜県)	スロバキア (パラ卓球、ポッチャ)	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <p>・過去2回の事前合宿等においてスロバキアの選手等と応援校の児童生徒との交流を実施するとともに、2019年8月に日本人パラリンピアン講演会やパラリンピック競技体験を通じた交流イベントを開催した。引き続き、事前合宿等における選手等と子どもたちをはじめとする市民との交流を通じて、市民の障害のある人への理解と配慮を促進していく。</p> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <p>・障害者関係団体等と連携し、新市庁舎（2021年開設予定）などの公共施設や道路、JR岐阜駅周辺等のバリアフリー化を推進している。また、ユニバーサルデザインに配慮した施設やアイデアなどを表彰（2018年度までに91件（応募は5,834件））するとともに、講座等を通じてユニバーサルデザインの考え方を市民に普及・啓発している。引き続き、障害者関係団体等と連携し、公共施設等の利用、移動、情報に関するバリアフリー化を推進していく。</p> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <p>・障害者関係団体等と連携し、視覚障害者を支援する「白杖SOSシグナル」運動のシンボルマークを作成して全国に普及するとともに、合理的配慮についての助言等を行う「岐阜市インクルーシブアドバイザー」を学校、企業等に派遣している。また、車いす体験等を通じた小中学校のインクルーシブ教育を推進している。引き続き、障害者関係団体等と連携し、障害のある人への理解と配慮の促進（心のバリアフリー）に取り組む。</p>

自治体名 (所在都道府県名)	相手国	活動計画
静岡市 (静岡県)	スペイン (パラバドミントン)	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2017年9月にスペインのパラバドミントン選手の合宿を受け入れ、日本代表候補選手や市内中学生などを招待し、合同練習やランチ交流会を実施した。2020年においても、同選手の事前合宿や事後交流の中で競技体験会などの市民交流を実施すると共に、パラスポーツの推進や競技人口の拡大を図る。また、2020年にはパラバドミントン（知的障害）の全国大会を市内に誘致している。</li> </ul> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2006年に策定した「静岡市公共建築物整備指針」及び「静岡市公共建築物整備マニュアル」に基づき、公共建築物のユニバーサルデザイン化を推進している。また、誰もがバスに乗りやすい環境を整備するため、1998年度より超低床ノンステップバスを導入する事業者を助成しており、2018年度末で導入率71.3%を達成。今後も「第2次静岡市ユニバーサルデザイン行動計画（2015～2022年度）」に基づき、ユニバーサルデザインのまちづくりを推進する。</li> </ul> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2005年から大雨・洪水・土砂災害等の警報や避難勧告等の災害情報が同報無線で発表された際、登録された聴覚障害のある人に向けてファックスを送信する事業を実施しており、今後も継続して実施する。2016年度から、市内で実施されるパラスポーツ合宿・大会等を誘致し、それをPRすることでパラスポーツや障害者の理解促進を図っている。2018年度は3件の合宿・大会等を誘致した。</li> </ul>
焼津市 (静岡県)	モンゴル (パラ陸上、パラテコンドー)	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年以降定期的にモンゴルパラ陸上競技ナショナルチームの公開練習及び小・中学校・特別支援学校との合同練習を開催しており、これまで4回・計230名の児童が参加した。交流を通じて障害者、また障害自体についての理解を深めており、東京大会以降もモンゴルパラリンピック競技団体との交流を継続していく予定。また、日本人パラ陸上選手との合同練習も実施しており、相互の意見交換を通じ更なる競技力向上を図っている。</li> </ul> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「すべての市民に開かれた庁舎」の方針の下、障害者団体等の参画を得てワークショップを実施しつつ、ユニバーサルデザインに配慮した新庁舎の建設を行っている（2021年開庁予定）。また、市内で新設する歩道の巻き込み部段差については、車いす利用者や視覚障害者の意見を取り入れ、1cmで設置することとしている。今後、障害者の意見も踏まえつつ、ユニバーサルデザインに配慮して体育館の再整備を行う予定。</li> </ul> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年4月に手話言語条例を施行するとともに、同年6月に手話普及のためのリーフレット15,000部を作成し、小・中学校に交付している。併せて、同条例に基づく講演を継続的に開催し手話普及に取り組んでいく。また、市内旅行会社と協力し、国内旅行者を対象としたろう者による手話案内ツアーを企画しており、2020年2月に実施を予定している。手話通訳者が同行し、1泊2日で市内観光地に立ち寄る予定。</li> </ul>
伊豆の国市 (静岡県)	モンゴル (パラ柔道)	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モンゴルのパラ柔道選手団を受入れ、事前合宿時の壮行会や大会後の学校訪問等の市民交流を行う。また、毎年2月に開催される市駅伝（約700名参加）において、2018年度は競泳のパラリンピアンを招待し講演会を実施した。今後とも、スポーツイベントにおけるパラリンピック関連の講演会や競技体験等を通じ、市民のパラスポーツへの理解を深めるほか、多様性理解や心のバリアフリーを促進していく。</li> </ul> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者や外国人を含む来訪客の誰もが快適かつわかりやすく使えるよう、助成事業を実施し施設案内看板の多言語化及びイラスト表示化を行う等宿泊施設のユニバーサルデザイン化を図った。また、公共施設の新設や改修の際はバリアフリーやユニバーサルデザインの視点で整備を実施しており、2019年度はスポーツ施設のトイレ計23か所を洋式化した。今後も継続して実施する予定。</li> </ul> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者に手を差し伸べられる思いやりのある「ノーマラ伊豆の国」を目指し、障害理解のためのクイズや絵本をHPで紹介している。また、「障がい者が災害に遭遇した時」等をテーマとしたパネルディスカッション、小中学校でのろう者講師による手話講習、手話通訳者・要約筆記者等の派遣等に継続的に取り組む等、ノーマライゼーションと心のバリアフリーの考え方が浸透した社会づくりを推進している。</li> </ul>

自治体名 (所在都道府県名)	相手国	活動計画
豊橋市 (愛知県)	リトアニア (ゴールボール)	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年4月にリトアニアのゴールボール事前合宿を実施し、小学生とのゴールボール体験会を主とした交流会（児童150名参加）を2度実施した。2020年も同国の事前合宿・事後交流を予定している。また、地元障害者アスリートとのポッチャ交流を開催し、幅広い年代の市民が障害者スポーツを体験できる場を設けるなど、各種取組を継続して行うことで国際理解や多様性の理解を促進させ、共生社会の実現を加速する。</li> </ul> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・UDタクシー・ノンステップバス・路面電車の低床車両の導入等の交通のバリアフリーに取り組む他、身障者観覧室やスタンドへのスロープ等バリアフリーな整備を施したアスリートファーストの陸上競技場を2018年3月にリニューアルオープンした。また、オリパラを契機に改正されたJISのピクトグラムの周知啓発や、学校へのユニバーサルデザイン啓発グッズの貸し出し等を通じ、ユニバーサルデザインについて学ぶ機会を継続的に提供していく。</li> </ul> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「人にやさしいまちづくり塾」を2015年以降開催しており、毎年1,000人以上の市民が参加。並行して講師育成にも取り組んでおり、育成講座には毎年40人以上が参加している。「広報とよはし」のユニバーサルフォント化、市発行の印刷物のカラーユニバーサルデザイン対応、点字広報及び声の広報（音声録音）作成も継続して行っている。また、小中学校と特別支援学校の交流及び共同学習の充実等、インクルーシブ教育の充実・発展を進めていく。</li> </ul>
鈴鹿市 (三重県)	英国 (パラ水泳)	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前合宿及び大会後交流において、英国パラ水泳選手・監督との交流を実施するとともに、選手たちとともに練習を行う施設周辺を点検し、バリアフリーマップを作成する。また、2017年度から実施している日本人パラリンピアンによる出前講座や講演等のイベントを今後も継続的に実施し、地域住民の障害の理解と共生社会への取組を促進する。</li> </ul> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市立体育館の車いす用観覧スペース及びスロープの設置等のバリアフリー化を行うとともに（2019年度改修完成）、市内主要駅に多目的トイレなどを整備していく。また、低床バス車両をコミュニティバスに導入している（11台中4台）。さらに、障害者等の移動の利便性及び安全性の向上のため、公共交通機関のバリアフリー化を図る。今後、2022年度までに全ての公民館に多目的トイレを設置する。</li> </ul> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年シティマラソン大会で車いす種目を設け、一般ランナーとともに楽しめる大会とするとともに、今年度からポッチャ体験会を開催し、パラスポーツの普及を図っている。また、手話言語条例を今年度から施行し、講演会やパンフレットの配布を行うとともに、発達面で課題のある児童の早期発見・支援のため5歳児健診を2016年度から実施中（2018年度受診率94.6%）。健診後は、保育園や幼稚園から就学後へと継続した支援を実施している。</li> </ul>
志摩市 (三重県)	スペイン (パラトライアスロン)	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スペイン・パラトライアスロンチームの事前キャンプを受入れ、選手等による競技用車いす等を使った学校訪問による交流体験や地元の催事への参加、地元出身パラリンピアンによる体験講演会等のパラアスリートとの交流を通じて、市民の「社会に存在する障がい」への認識や障害者目線の視点を育み、「心のバリアフリー」推進に繋げる。</li> </ul> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バリアフリー観光を推進するため、市の補助金を活用した宿泊施設のバリアフリー改修（2018年度5件）、伊勢志摩国立公園や道の駅の公衆トイレのバリアフリー化等を進めるとともに、NPO法人と連携し、障害者、高齢者の観光客サポートやバリアフリー対応施設や車いすレンタル等の情報発信をしている。公共交通機関では、駅のエレベータ整備や車両への車いすスペースの設置、ノンステップバスやリフト付き観光バスの導入を促進している。</li> </ul> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2015年より「手話奉仕員養成講座」を毎年開講するとともに、修了者の「手話奉仕員」への登録を促進している。今後、聴覚障害者等が気軽に市役所を利用できるように「耳マーク」を掲示して窓口対応等を実施していく他、ポスターや広報誌等における周知にも取り組んでいく。また、タンDEM自転車等パラアスリートが利用できる自転車の公道常時利用の実現に向けて取り組んでいる。</li> </ul>

自治体名 (所在都道府県名)	相手国	活動計画
甲賀市 (滋賀県)	シンガポール	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <p>・2019年10月にシンガポールのボッチャ選手が小学校訪問や市民ボッチャ交流大会で市民との交流を行った。2020年の事前合宿に際しても、市民を対象に練習風景の見学会や、知的障害のある人が手掛けた独創的なアール・ブリュットの作品や創作スタイル見学といった交流を行うとともに、市民ボランティアによるサポートを行う予定である。また、地元パラアスリートによる小中学校への出前授業を実施しており、今後も継続していく。</p> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <p>・市役所庁舎やまちづくり活動センター「まるーむ」の整備にあたって、障害関係の団体に意見を聞き、トイレ設備の充実や点字案内の設置等市民の誰もが使いやすい施設とした。また、市内鉄道駅のバリアフリー化や、コミュニティバスの低床化、駅や市役所周辺の歩道拡幅や誘導ブロックの設置等も行っている。2024年の全国障害者スポーツ大会のボッチャ競技会場となる体育館は、2020年の開館を目指しバリアフリーを進めている。</p> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <p>・学校の長期休暇を活用し、幅広い年齢層のボランティアが障害児と工作や楽器演奏、夏祭りを通してふれあう取組を長年続けている。また、障害者就労支援事業所の共同受注窓口を設置している。さらに、2024年の全国障害者スポーツ大会において、本市でボッチャ競技が行われることから、ボッチャを中心に誰もが楽しめるスポーツの大会や体験教室を開催し、障害者スポーツの普及と心のバリアフリーを推進している。</p>
池田市 (大阪府)	フランス (車いすラグビー)	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <p>・事前合宿の期間中、フランスの車いすラグビー選手等と交流会や練習見学、パラスポーツ体験等の交流を行う予定であり、2020年以降も交流の継続を目指す。また、これまで、NPO法人と連携し、パラアスリートの指導の下、車いすラグビーや車いすバスケットボールの体験会等を開催しており、今後も継続して取り組む。これらを通じて、オリパラの機運醸成はもちろん、市民へのパラスポーツの普及と心のバリアフリーの促進を図る。</p> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <p>・ノンステップバスへの置き換えを市の補助金を活用しながら随時行い、2018年度末の市内線導入率は7割を超えている。2019年7月、利用者の意見を聞きながら、事前キャンプで利用する総合スポーツセンターのトイレ、観客席等の改修工事に着手した。また、2020年度にバリアフリー法のマスタープランを策定し、ユニバーサルデザインのまちづくりに取り組むとともに、障害者アスリート等と一緒にバリアフリーマップを作成していく。</p> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <p>・障害者支援の店を阪急池田駅前に開店し、全国約40の事業所等に通う障害者らが作った品を販売している他、ヘルプマーク・ヘルプカードの普及啓発や手話講座・音訳講座を行っている。2019年度から「障がい者美術作品展」を市役所ロビーで開催しており（96作品掲示）、今後継続・拡充を図る。また、2019年度に小中学校（各2校）で地元の車いすバスケットボール選手による体験会を実施したところであり、今後全小中学校での実施を目指す。</p>
守口市 (大阪府)	ガンビア	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <p>・2020年大会後の事後交流でガンビアのパラリンピアンと小中学生が講義や実技披露等で交流を行う予定。また、大阪府障害者スポーツ大会に出場した選手が、児童・生徒や市民に対し講座や実技披露等を行う交流会を開催する予定。これらに加え、障害者も参加できる市民スポーツ大会「ジョイスportsもりぐち」の毎年開催等を通じ、障害に対する理解の更なる促進を図る。</p> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <p>・障害者団体等の意見を踏まえユニバーサルデザイン化した市立図書館を2020年4月に新設予定。全小中学校に障害者用トイレを設置済み。バリアフリー法の基本構想に基づき2000年から実施している5か所の旅客施設のバリアフリー化が概ね完了したところであり、今後は市民アンケートやタウンウォッチング等を実施し、旅客施設を中心とした地区だけでなく、市内全域を対象としてバリアフリー法のマスタープランを策定予定。</p> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <p>・障害の有無に関わらず一緒に競技する「ニュースポーツ大会」を毎年開催。今後も新たなスポーツを導入し、障害者スポーツのさらなる普及と障害理解の促進を図る。また、2017年度から障害者の就労支援事業所に市役所本庁舎内で毎週輪番で授産製品の販売ができる場を提供し、9事業者が利用中。2018年からは重度障害者の外出支援として、福祉タクシーの利用助成を実施している。今後、市役所職員には、合理的配慮についての研修を実施予定。</p>

自治体名 (所在都道府県名)	相手国	活動計画
大東市 (大阪府)	コロンビア (車いすバス ケ・車いすラグ ビー)	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <p>・コロンビアパラ選手の事前合宿の際に、握手会や競技体験、高校生や大学生によるコロンビア国歌の斉唱等の幅広い交流を行う他、地元企業である川村義肢と連携し、コロンビアのみならず日本人障害者アスリートも招き、講演会や交流イベントを実施し、心のバリアフリーの普及を図る。また、障害者の社会参加の促進と生涯に亘って取り組むことのできるスポーツの推進を目指し、「大東市ニュースポーツフェスティバル」を来年3月に開催する。</p> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <p>・駅周辺の道路状況調査と歩行空間ネットワークデータ整備を行い、駅周辺のバリアフリーマップを順次作成している。また、民間団体が民間店舗等について「ユニバーサルマップ」を作成しており、今後両者を一体化したマップを策定する。また、小学校跡地を活用し、車いす競技が実施可能な体育館（アクティブスクウェア大東：民間事業者運営）を設置している。さらに、来年度目標年次を迎えるバリアフリー基本構想の改定に取り組む。</p> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <p>・大阪府初となる「大東市こころふれあう手話言語条例」を2015年に施行。手話講習会（計40回の講座を約40名が受講）やステップアップ講座を毎年開催し、手話の普及啓発に努めている。また、筆談用ホワイトボードを市役所庁内に配布済。また、障害に対する理解促進のため、市内公立小学校7校の3年生が日本有数の義肢義足製造会社で市内に本社を持つ川村義肢を毎年見学している。来年11月には日本身体障害者補助犬学会が開催される。</p>
三木市 (兵庫県)	ネパール (パラテコン ドー) ・ フランス (パラ陸上)	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <p>・2019年8月にネパールのパラテコンドー事前合宿に際し、歓迎レセプションの他テコンドー体験会を開催した。2020年はネパールに加え、フランスのパラ陸上の事前合宿及び市民との交流会等を実施する。今後、事前合宿を契機として障害者スポーツ大会等において継続して活動していただく市民ボランティアを募集・育成するとともに、日本人パラリンピアンによる講演等のイベントも実施し、市民の心のバリアフリーを促進する。</p> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <p>・県よりユニバーサル社会づくり推進地区指定を受けた旧市街地において、2019年4月より民間集会所、医療施設、飲食店等のバリアフリー改修費を県と市で補助しており、来年度以降も商店街等民間施設の改修を進める予定。また、県福祉のまちづくり条例に基づき、購買施設、共同住宅、事務所等の建設に際してのバリアフリー化に係る指導・助言、及び同条例の区域内における段差解消やバリアフリー工事を継続して実施する。</p> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <p>・障害者ふれあいスポーツ大会の開催（2018年度当事者250人参加）、障害者の人権についてのセミナーやフォーラムの開催（2018年度計6回）、障害者差別解消地域協議会の開催（2018年度延べ20回）、講演会等へ手話通訳者・要約筆記者の派遣(2018年度計458回)、障害者を雇用する事業所への助成金の交付（2018年度10社）を行っている。今後、タブレットを貸し出し、市の設置手話通訳者が通訳オペレーターとなる遠隔手話事業を実施する。</p>

自治体名 (所在都道府県名)	相手国	活動計画
大和郡山市 (奈良県)	シンガポール (パラ水泳)	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <p>・2019年5月にシンガポールパラ水泳チームが強化合宿し、市特産の金魚にちなみ金魚すくい体験等の文化交流を実施。2020大会の事前合宿で来日するパラリンピアンと文化体験・スポーツ交流を予定。また、2019年7月には片腕バイオリニストでもある日本人パラリンピアンとの講演会(約570人参加)を実施し、障害者及び障害者スポーツに対する理解を図った。今後とも継続的にこのような機会を設けていく。</p> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <p>・2020年度供用開始する市庁舎建替えに際し、障害者団体と懇談会を実施し、重度障害者も利用できるストレッチャー対応のエレベーターを設置するとともに、聴覚障害者のための自動火災報知機連動のフラッシュライトを全てのトイレに設置する。また、2020年度より市内の事業所に対し簡易スロープの設置の補助を開始する。今後、多目的トイレを全ての小学校への設置を目指す。</p> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <p>・2015年に奈良県で初めて「大和郡山市手話に関する基本条例」を実施し、小学校4年生以上、中学校、銀行、病院等に手話出前講座を年10回程度実施するとともに、手話を学ぶ動画を作成している。また、競技参加者約200名、ボランティア約50名の参加を得て、障害者スポーツ大会(2019年度で34回目。)を毎年開催している。今後、障害者差別解消法等の理念や趣旨を正しく認識してもらうため、パンフレットを作成し、全戸に配布する予定。</p>
邑南町 (島根県)	フィンランド (ゴールボール)	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <p>・2018年にフィンランドゴールボール選手団が来町し、福祉施設や養護学校での交流会やゴールボール体験会を行った。加えて、ゴールボール日本代表選手や、車椅子バスケットボール元日本代表選手、陸上視覚障害マラソン元日本代表選手等パラアスリートとの交流等を毎年実施している。今後もパラアスリートとの交流を通じ、障害への理解を深め、心のバリアフリーの普及とユニバーサルデザインの街づくりに向けた機運醸成、取組の活性化へとつなげていく。</p> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <p>・2019年に、公共施設である健康センター元気館内の点字ブロックの増設とトイレ等の音声ガイド設置を行うとともに、国民健康保険直営診療所の入口点字マット、音声ガイドを設置した。今年度は、フィンランド派遣団が精神障害者施設の実地調査を予定している。パラアスリートとの交流や心のバリアフリーの取組を通じた心の変容が行動の変化につながり、まち全体の環境(ハード面)のバリアフリー化が加速することを目指している。</p> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <p>・2016年度から、障害者理解を目的としたゴールボールの出前講座をこれまで30回以上実施している。2018年度には、内閣官房オリパラ事務局のアニメーション動画を活用した心のバリアフリー研修を、町民に対して3回実施した。また、町内の中学・高校・養護学校の生徒を2017年より毎年フィンランドに派遣しており、今後も同事業を通じて若年層の多様性理解と心のバリアフリー普及の両面を促進していく。</p>
真庭市 (岡山県)	ドイツ (パラ馬術)	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <p>・ドイツのパラ馬術選手らを大会後に受け入れ、パラ馬術のPR、学校訪問、交流会等を行うとともに、市民を対象とした日本人パラリンピアンとの講演やパラスポーツ体験等のイベントを実施し、市民の障害理解と心のバリアフリーを促進する。また、パラリンピアンによるスポーツ施設等のバリアフリー状況の確認を行い、フィードバックを得てユニバーサルデザインの街づくりの加速化につなげる。</p> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <p>・県福祉のまちづくり条例に基づきユニバーサルデザインの考え方を取り入れて支所・図書館等の機能を持つ複合施設(2016年竣工)等の公共施設を整備している他、基幹となる公衆用トイレ改修の際に段差解消や多目的トイレの設置等を進めている。今後、ドイツのパラ選手の受け入れを契機として蒜山高原ライディングパークで多目的トイレ等を設置するとともに、観光施設の多目的トイレ等の設置場所を示したバリアフリーマップを作成する。</p> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <p>・市内全小中学校において、障害者理解に向けた心のバリアフリーに関する学習を実施しており、今後、パラリンピックを通じて学んだことを内容に追加していく。また、障害の有無に関わらずスポーツ交流ができる「ふれあいスポーツフェスティバル」や障害者の活動発表や車いす等を使った疑似体験などを行う「まにわ福祉フェス」を開催しており、今後、障害者と健常者とが一緒に行える大会の開催を一層促進し、相互理解を推進する。</p>

自治体名 (所在都道府県名)	相手国	活動計画
松山市・愛媛県 (愛媛県)	台湾 (ボッチャ・パラ柔道) ・ モザンビーク (パラ陸上)	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <p>・2019年10月には台湾及びモザンビークパラ選手の事前合宿を受入れ、高校・大学生及びパラアスリートチームとの合同練習や高校生による地元食材の料理提供等の交流を行った。2020年にも両国の事前キャンプを受入れ、小中学校や特別支援学校の児童・生徒との交流を通じ、パラスポーツへの理解と心のバリアフリーを促進する。今後とも、両国パラ選手等との継続的な交流や、ボッチャの指導者育成・競技人口拡大等を通じ、共生社会を実現する。</p> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <p>・旅客施設のエレベーターの設置や段差の解消、改札口の拡幅、低床式路面電車・低床バスの導入に対し、助成を行うことにより公共交通のバリアフリー化を実施している。また、観光地及び公共施設、民間施設等の「松山市バリアフリーマップ」を作成し、市民への配布やバリアフリー情報サイトでの発信を行っている。今後、路面電車の駅前広場内引込み等の松山駅周辺地区の一体的な整備を進め、障害者や高齢者が利用しやすい街を目指す。</p> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <p>・2019年に中心市街地商店街でステージ発表やアート作品の展示・販売、障害者とデザイナーがアート作品を活用した商品化を検討するワークショップ等を行う「障がい者芸術文化祭」を初開催するとともに、美術館でアート作品を展示・顕彰した。来年度以降も、障害者芸術文化活動の発表の場を充実・発展させる。また、障害者がサポーターとともにタンDEM自転車で走行する体験会等を通じ、障害者の社会参加や心のバリアフリーを進める。</p>
龍郷町 (鹿児島県)	台湾 (パラ卓球)	<p><b>【パラリンピアン等との交流】</b></p> <p>・台湾のパラ卓球チームとのパラスポーツ体験会、台湾のパラリンピアンやコーチとの交流会を開催し、オリンピック・パラリンピックの機運醸成を図るとともに、事前・事後交流を通じ町民の心のバリアフリーを意識啓発し、パラスポーツの普及推進に努める。また、町民の国際理解、障害を含む多様性理解を促進させ、共生社会の実現を加速化させる。</p> <p><b>【ユニバーサルデザインの街づくり】</b></p> <p>・本町が奄美大島観光の中間地点であること等に鑑み、公園、観光地、生涯学習センターへの障害者用トイレ設置、役場庁舎への障害者用駐車場設置（9か所）等、ユニバーサルデザインの街づくりに努めている。また、今後、パラリンピアンや地元障害者とともに公共施設のバリアフリーの点検を行い改善に努めるとともに、県と共同で障害者の利用も想定した「世界自然遺産 奄美トレイルマップ」を作製する。</p> <p><b>【心のバリアフリー】</b></p> <p>・小中学生による障害者施設交流、地域住民による障害者施設との伝統芸能交流、障害者ゲートボールスポーツ大会等、障害のある方と住民との交流を通じ、心のバリアフリーを進めている。障害の有無に関わらず誰もが暮らしやすい町となるよう、今後、パラリンピアンによる講演会や小中学生、地元障害者等によるパラリンピアン等との文化体験・観光体験、食体験を行う。</p>